

きょう「世界津波の日」



若者の防災活動などを巡って話し合う武田担当相と学生ら

武田 世界津波の日の制定当時、仲間の国会議員と手分けして各国に協力を呼び掛けた。東日本大震災のニュースが世界に伝わっており、各国は快く賛同してくれた。制定前後で防災意識は変わってきた。きょうは皆さんの意見を聞き、防災対策を生かしたい。

戸丸 武山さんがボランティアアガイトを始めたきっかけは、武山 東日本大震災時に助けてもらった恩返しをしたかった。中学生で語り部をやりたいと思いつき、高校生になって同年代の友達と一緒に「東松島市学生震災アガイト(TTT)」という

たけだ・りょうた 早稲田大学大学院修了。2003年衆議院初当選、衆議院議員6回。19年9月から現職。福岡県出身。51歳。

戸丸 若い3人の取り組みへの意見を。藤井 友人、知人を亡くした武山さんの話が胸に響いた。震災の話は耳には届くが、そのまま伝えただけでは、平穩無事に暮らす人々の心には響かない。武山さんは、いろいろな工夫して大切なことを伝えようとして努力されている。2011年3月11日午後2時45分の世界と、2時46分(東日本大震災の発生時刻)の世界には断絶がある。発生前の世界にいる上田さん、河村さんは想像力を働かせて、発生の世界に手を伸ばしている。若い人たちが断絶した世界の懸け橋となることで、今後、発生が想定される南海トラフ巨

「災害列島」認識が必要

武田氏

武田 世界の高校生を一堂に集めて防災対策を議論する「世界津波の日高校生サミット」を日本でも毎年開き、将来の防災リーダーを育てている。4回目の

戸丸 若い世代に期待するのは。武田 世界の高校生を一堂に集めて防災対策を議論する「世界津波の日高校生サミット」を日本でも毎年開き、将来の防災リーダーを育てている。4回目の

死者ゼロへ 教訓広めて

藤井氏

武山 私たちの世代で「災害」の認識を変えたい。災害をただ怖いもの、危ないもの、たくさん人が亡くなるもの、と認識するだけでは駄目だ。防波堤や防潮堤など行政のハード面の防災対策をしっかり理解すると同時に「自分たちができることは何か」という自助・共助のソフト面も併せて考えていく。「災害を正しく恐れて自分の身を守る」ということを私たちのメッセージにしたい。

藤井 今後、確実に津波は来る。その津波の死者をゼロにするか、それとも数万人にするかは、われわれの努力にかかっている。世界津波の日の由来である「浜口梧陵」の物語は、有用な堤防事業など津波から多くの人命やまちを救った知恵、教訓が詰まっている。この浜口梧陵の物語を国民の常識にしていきたい。

武田 昨今の状況を考えると、日本はどの地域に住もうと災害が発生する「災害列島」だと認識する必要がある。国はそれぞれの地域が、しっかりとした地域防災力を確立できるように総力を挙げてバックアップするとともに、災害にもうい部分を強くする国土強靱化を先頭に立って進める。

世界津波の日 2011年3月11日の東日本大震災の津波被害を受け、日本は同年6月、防災意識の向上のため法律で11月5日を「津波防災の日」とした。この11月5日を「世界津波の日」としたのは15年12月の国連総会。提唱者の日本を含む世界142カ国が共同提案し、全会一致で採択された。日にちは1854年11月5日の「安政南海大地震」で、和歌山県の浜口梧陵が機転を利かせ、収穫した自らの稲に火を付け避難を促し、多くの人命を津波から救った偉業を基にした「稲むらの火」という物語にちなむ。その後、梧陵は堤防建設にも取り組み、後の津波からまち全体を救った。

- 出席者**
- 防災・国土強靱化担当相 武田 良太氏
 - 京都大大学院教授 藤井 聡氏
 - 東京福祉大1年 武山ひかるさん
 - 静岡大3年 河村 拓斗さん
 - 上田 啓瑚さん
 - ◇進行役 フリーアナウンサー 戸丸 彰子さん



河村 上の世代から受け継いだ防災知識・活動を、僕たちなりの工夫や解釈を加えて、高校生や中学生に伝えて引き継いでいきたい。世代間のつながりを大切にしたい。

上田 お年寄りから若い世代まで僕たちの世代がつけ、防災活動の裾野を広げていきたい。

正しく恐れ 身を守る

防災活動に取り組む若い力 座談会

日本の呼び掛けで誕生した11月5日の「世界津波の日」。国連で2015年に制定され、津波対策への関心を世界に広げている。この世界津波の日を記念した座談会が東京都内でのほど開かれ、武田良太防災担当・国土強靱化担当相、政府に国土強靱化施策についての助言を行うナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会座長の藤井聡・京都大大学院教授が、防災活動に取り組む大学生3人を交え、若者の防災活動などをテーマに意見交換した。参加した学生は、東日本大震災の被災者で震災ボランティアアガイトを立ち上げた静岡大3年の河村拓斗さんと上田啓瑚さん。進行役はフリーアナウンサーの戸丸彰子さんが務めた。

武田 世界津波の日の制定当時、仲間の国会議員と手分けして各国に協力を呼び掛けた。東日本大震災のニュースが世界に伝わっており、各国は快く賛同してくれた。制定前後で防災意識は変わってきた。きょうは皆さんの意見を聞き、防災対策を生かしたい。

戸丸 武山さんがボランティアアガイトを始めたきっかけは、武山 東日本大震災時に助けてもらった恩返しをしたかった。中学生で語り部をやりたいと思いつき、高校生になって同年代の友達と一緒に「東松島市学生震災アガイト(TTT)」という



たけやま・ひかる 東京福祉大1年生。東松島市学生震災アガイト(TTT)を15年に立ち上げた。東松島市出身。18歳。

戸丸 武山さんと河村さんの活動拠点である静岡県は「南海トラフ巨大地震」の発生が懸念されている。被災者の武山さんに聞きたいことは。上田 震災の前によつておけばよかった、と後悔することを覚えてほしい。

武山 後悔は数え切れない。

震災体験 絵本で伝える

武山さん

河村 中学生の時に東日本大震災の被災地を訪れ、防災に関心を持った。被災地支援のボランティアを個人的にしていたが、他大学の学生防災団体の活発な活動や熱意に触発された。上田 防災への関心は祖父の影響が大きい。マジックや紙芝居で子どもたちに防災の大切さを教える祖父のボランティア活動をみて育ったので自然に関心が芽生えた。防災を学ぶた

かむら・たくと 静岡大3年生。18年に創設した静岡大学生防災ネットワークの代表。愛知県出身。20歳。

戸丸 活動内容は。上田 メンバーは「応急手当普及員」など防災活動に必要な各種資格を取得し、個人の防災力を磨きながら被災地でボランティアをしている。地元地域住民と一緒に危険箇所や避難施設などを回る「防災まち歩き」や子ども向けの防災イベントなども行っている。

戸丸 上田さんと河村さんの活動拠点である静岡県は「南海トラフ巨大地震」の発生が懸念されている。被災者の武山さんに聞きたいことは。上田 震災の前によつておけばよかった、と後悔することを覚えてほしい。

武山 後悔は数え切れない。

組織づくり被災地支援

河村さん

かみだ・けいこ 静岡大3年生。静岡大学生防災ネットワーク創設の中心メンバーとして広報を担当。津市出身。20歳。

戸丸 普段から自分の身を守る、周囲の人を助ける「自助」「共助」に役立つ知識を持つことが大切だ。災害時にすぐ出せる防災知識の引き出しを増やすことが防災意識、防災力を高める。多くの人に防災を「わがこと」にしてもうには、堅苦しくて面倒くさいものと思わずに、楽しみながら防災を考えてもらう工夫が必要だ。例えばワークショップの参加者に「避難所運営の責任者」になったと仮定した場合、どう運営するかを考えてもらう。ゲーム感覚で参加できるのが構えずに、自然に当事者意識が高まる。

住民と歩き危険度確認

上田さん

武山 普段から自分の身を守る、周囲の人を助ける「自助」「共助」に役立つ知識を持つことが大切だ。災害時にすぐ出せる防災知識の引き出しを増やすことが防災意識、防災力を高める。多くの人に防災を「わがこと」にしてもうには、堅苦しくて面倒くさいものと思わずに、楽しみながら防災を考えてもらう工夫が必要だ。例えばワークショップの参加者に「避難所運営の責任者」になったと仮定した場合、どう運営するかを考えてもらう。ゲーム感覚で参加できるのが構えずに、自然に当事者意識が高まる。

河村 防災への意識、当事者意識を高めるために必要なことは。上田 防災への意識、当事者意識を高めるために必要なことは。河村 防災への意識、当事者意識を高めるために必要なことは。